

性的な罪を克服する（新約聖書：第一テサロニケ人への手紙 4章 1～8節）

<https://www.youtube.com/watch?v=OnQjoD57who>

ご起立いただけますか。立てない方は、座ったままで結構です。私が読みますから、目で追ってください。使徒パウロはテサロニケの教会に宛てて手紙を書いています。ここ第4章からは、言ってみれば、パウロは針路を変えて、こう言います。第1節から。

「終わりに、兄弟たちよ。主イエスにあって、お願いし、また勧告します。あなたがたはどのように歩んで神を喜ばすべきかを私たちから学んだように、また、事実いまあなたがたが歩んでいるように、ますますそのように歩んでください。」

2節

「私たちが、主イエスによって、どんな命令をあなたがたに授けたかを、あなたがたは知っています。神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行を避け、」

ここで、続けて4節に入る前に、私は補足的に言わなければなりません。「（性的）不品行」と訳されているこの言葉は、ギリシャ語で書かれた言語の新約聖書では、「ポルニア」というギリシャ語で、そこから英語の「ポルノ」または「ポルノグラフィ」が派生しています。性的不品行です。それは性的な罪を広く包括し、婚外の性的な罪、つまり不倫、婚前の性的な罪、つまり未婚者の姦淫、そしてすべての性的不道徳、殊にインターネット上のポルノを含みます。何で私のことをそんな風に見てるんですか？

聖書を一巻ずつ、章ごとに、一節一節 教えていくと、こうなるんです。このような箇所を抜かして読むことができません。うそじゃないんです。私が「主よ、イヤですよー」と思う時があるんです。「今日はやめてください。」「いや、今日だ。」「分かりました。」では、4節です。

「各自わきまえて、自分のからだを、聖く、」

もっとひどくなりますよ。

「自分のからだを、聖く、また尊く保ち、」

5 神を知らない異邦人のように 情欲におぼれず、また、このようなことで、

6 兄弟を踏みつけたり、 欺いたりしないことです。なぜなら、主はこれらすべてのことについて正しくさばかれるからです。これは、私たちが前もってあなたがたに話し、きびしく警告しておいたところです。

7 神が私たちを召されたのは、汚れを行なわせるためではなく、聖潔を得させるためです。

8 ですから、このことを拒む者は、人を拒むのではなく、あなたがたに聖霊をお与えになる神を拒むのです。

ご一緒に祈りましょう。主よ。私はこの箇所を教える上であなたの助けを必要としていることを、ためらうことなく認めます。その理由は分かり切っていると思いますが、私はあなたの真理のみことばをまっすぐに説き明かしたく、聖霊があなたの御言葉の教えに油を注いで下さること、特にこの主題に関して、私たちの生活に適用できるように、油を注いで下さることを願います。ですから、主よ。あなたの御言葉によって私たちに働いてくださるよう祈ります。イエスの御名によって。アーメン。アーメン。

お座りください。ありがとうございます。今日何をお話するか、分からないでしょうね（笑）

私たちは、扱いにくい話題に取り組みます。性的な罪のことです。でも...もっと重要なのは、勝利を得ることが実際にいかに可能であるか。私がこう言ったらどうでしょう？ あなたと私は、性的に清らかに、勝利のうちに歩むことができる、と。それは達成しうるものだ、と。それが実行可能だ、と。

それは達成可能なのです。性的に清く生きることは可能なのです。私がそう言ったら、皆さんは信じますか？ 私は神の御言葉の権威によって皆さんに断言します。まもなくここから分かるように、私たちは性的な罪を克服できるのです。私は今回の教えの題名を「性的誘惑を克服する」とはしていません。

違います。もう少ししたら、 それについてもっと説明しますが、私がお話ししているのは、 性的な「罪」を克

服することについてです。私たちは、この地上にいる限り、誘惑を受けないという所に至ることは決してありません。ところで、おそらく今ほどいい機会はないでしょうから、言っておきます。罪への誘惑を受けることは罪ではありません。ヤコブがこのことに触れています。私たちが誘惑されて、それに負け、その誘惑におびき寄せられて、その餌食になって初めて、私たちは罪を犯すのです。ですから、私たちが今日皆さんとお話したいのは、私たちがクリスチャンとして、清く歩み、性的な罪に打ち勝つことがいかに可能であるか、ということです。留意すべきことは、おそらくパウロは、質問に対する回答を与えているのだろうということです。テモテが持ち帰ってきたと思われる質問です。パウロはテモテをテサロニケに遣わしていたのでした。パウロは行くことができませんでした。行きたいと切望していたのですが、彼は彼らの様子を知りたかったのです。なぜなら、彼はテサロニケでこの教会を始めた時、3週間ほどしか彼らと一緒にいられなかったからです。そして彼は、その町から追い出されました。彼はもっと彼らと一緒にいて、彼らをもっと御言葉に根付かせ、定着させたかったのですが、できませんでした。そして、私たちが見てきたように、そのことは彼をとて動揺させていました。彼がもう我慢できないくらいまで。彼は第3章で、二度、そう言っています。

「私にはもう耐えられない。私はあなたの方の様子をどうしても知りたい。」

「だから私たちはテモテを遣わしたので。」

テモテは、パウロの滞在しているコリントに戻って来て、この報告をもたらします。

「彼らは信仰に立ってよくやっています。」

パウロは喜んでいます。

「私はもう嬉しくてたまらない。」

「あなたがたがよくやっていることが分かったから、私はどうにかやっていけます。」

しかし、どうやら、彼らにはパウロに質問したい事柄があったようです。そして、今、パウロはこれらの事柄に対して回答しているようです。これらの事柄の一つは、性的な不道徳に関することです。もう一つは、この章の終わりごろに出てくるもので、死んでしまった彼らの仲間たちのこと、彼らは携挙のことについて質問していました。「さあ、どうなるのですか？」それで、パウロはそれらの質問に答えることとなります。彼らの質問に答える形でそれらの具体的な事柄に対処します。それで、この箇所を教える上で、私がしたいことは、まず、なぜ、性的な罪が禁じられているかについて、三つの理由を提供することです。これを知っておくのは非常に重要なことですから、どうか聞いてください。性的な罪を克服するという点に関して言えば、それは私たちの理解に密接に関係するものです。性的な罪が良くないのは、それが禁じられているからではなく、性的な罪は、それが悪いから、禁じられているのです。説明しましょう。これは言葉遊びではありません。絶対に神をこんな風に想像しないでください。

「なんじーべからず！わたしが神であり、わたしがそう言ったのだから。」

違います。どちらかと言うと、こんな感じです。

「なんじ、性的不品行を犯すべからず。」

「あなたがそれをしたら、危害、痛み、危険、破滅があなたの身に起こるからです。」

性的な罪が禁じられているのは、それが私たちにとって、非常に良くないものだからです。それが私たち、つまり、私たちの体と心にもたらす危害。私が話の終わりにしたいと思っていることは、この領域で苦悩している人たちに、励ましと希望を与えることです。そして、私のはっきりと認識しているのは、皆さんも私も同一の統計データに 関与しているということです。インターネット上のポルノという問題に関して言えば、残念なことに、ただ男性たちだけでもありません。女性に関しての数値も増加しています。それが今日、私が取り上げ、取り扱いたい問題ですが、今日皆さんには良い知らせがあることを知っていただきたいのです。清さを勝ち取ることは可能なのです。それを見ていきます。では始めましょう。まずは第一の理由です。1節と2節です。これだけでも（十分でしょう）。それは神を不快にするのです。それは神を不愉快にします。神の心を悲しませるのです。私が面白いと思うのは、パウロが書き出しとして彼らが神を喜ばせるような生き方をしていると、彼らを誉めていることです。しかしながら、彼らを誉めながら、彼は彼らに、ますますそうするようにと促して

います。私がそれを面白いと思う理由は、それが、何らかの具体的な性的な罪のことでパウロが彼らを責めているのではないことを示しているようだからです。コリント人たちのケースとは違います。第一コリントと第二コリントを学んだ時に一緒にいた方たちは覚えているでしょうが、それはすごく白熱して、居心地が悪いほどでした。彼らのその教会には、継母と性的な罪を犯している人がいたんです。そしてコリントの人たちは、それを容認し、許可し、受け入れていました。「私たちはだれのことも愛し、歓迎し、受け入れたい」という御旗を掲げて。パウロはこんな風に反応しました。「本気か?」「あなたがたはそれが愛だと思うのか?」「それは愛ではない。愛と言うのは...」ちなみに、そこであの有名な愛の章が生まれたわけです。

私たちが、結婚式の最中に引用するのが大好きなものです。「あなたがたは愛というものが全然わかっていない。」「あなたがたは全然愛していない。」「事実、もしもあなたがたが本当に彼のことを愛していたら、これを受け入れないだろう。」

実際、パウロは彼らに命じます。「あなたがたは彼を教会から追い出さない。今すぐに。」「彼を教会から追い出し、彼をサタンに引き渡しなさい。」「彼の肉が滅ぼされるためです。」うわああ。なんだか厳しいですね。いいえ。それが愛です。あなたが誰かのことを十分に愛するなら、そうするのです。なぜなら、あなたが彼らのことを愛し、彼らにとっての最善を望むからです。当然、教会のためにもです。それをおおっぴらに続けさせてはいけません。だれもが知っていました。彼を取り除きなさい!そして彼をサタンに引き渡しなさい。そうすれば、彼は正気に戻り、悔い改めるでしょう。そして、案の定、コリント人への手紙第二で、彼は悔い改めます。コリントの教会はおもしろい教会で、カルバリーチャペル・コリントの牧師をするなんて、想像できませんが、その人は悔い改めて、戻ってきます。でも、彼らときたら...「...そううまくはいかないよ。」パウロは彼らを戒めなければなりませんでした。「いや、彼を受け入れなさい。」「彼を迎え入れなさい。彼は悔い改めた。正気に戻ったのだ。うまく行ったのだ。」「彼を交わりの中に戻って来させなさい。」

とにかく、私がこれを持ち出すのはそれが、その教会内であった具体的な性的不品行だったからです。しかし、ここではそうではありません。では、パウロはなぜこのことを話題にするのでしょうか。私が思うに、それは彼らを叱責するためではなく、守るためです。パウロにはこの猛烈な保護愛があったように見受けられます。彼が再び訪れたいと切望していたこの教会に対して。彼がそこで彼らと過ごした時間が短すぎたからです。また、彼にはよく分かっていたことがありました。当時の社会は、完全に、性的不品行で満ち溢れていました。そしてパウロは彼らを守りたいと思い、彼らに警告を与えたいと思い、彼らを励まし、頑張り続けるように促したいと思っています。この、性的不品行の領域に関して。これが第二の理由につながります。それは、それが他の人たちを騙すからです。パウロはここでとてもはっきりとさせています。性的な清さは神を喜ばせるだけでなく、それはまた、神のみこころでもあります。みなさん、神のみこころを知りたいですか?ここにあります。ここです。神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。聖別されること。救いに続いて、聖化の過程がきます。それは、聖霊の内住および聖霊から与えられる力によるものです。(今のは、何だったんでしょう?)言っておきましょう。今日は、敵が本当に一生懸命頑張っていて、私にこの話をさせたくないのです。第一礼拝でもそう感じました。祈りましょう。

お父様...今この時、あなたにしかできませんから、聖霊によって敵を遠ざけておいてください。邪魔が入りませんように。だれの思考の中にも、何事が入ってくることも許さないでください。私たちの心がさまよって、今日、私たちの前にあるあなたの御言葉の人生を変える真理を受け損ねることがないように。私たちはこれをイエスの御名によって求めます。アーメン。

聖化は救いに続いて来ます。聖化されること、清められることは、聖化の過程、浄化の過程で、聖霊が、あの内側からの新生が私たちを変え、私たちを、もっとイエスに似た者とします。そこで、パウロは言っています。神のみこころは、私たちが性的な罪を避け、自分の体を制御することによって聖化されることです。当時の社会が收拾のつかないものであったと言わんばかりに。敢えて言わせてもらえば、今日の社会も、このことに関して言えば、收拾がつかなくなっています。何ということでしょう。私たちの生きているこの時代は、マウスをクリックするだけで、最も生々しくて、おぞましく、下品なポルノグラフィがすぐに目の前の画面や、手

元の携帯に現れます。6節の初めの部分で、私にはとても興味深いことなのですが、パウロはこう言います。「このようなことで」性的不品行に関しては、「兄弟（姉妹）を踏みつけたり、欺いたりしないことです。」それが性的不品行のわざです。私が信仰を持って間もなく聞いた説明で、長年忘れないものがあります。すごくいいんです。こういうお話です。毎回...

私は、この世が使う「やる (hookup)」という表現を使うのはすごく嫌なんですけど、彼らが性的関係を持つ時、それは二枚の紙を糊で貼り合わせるようなものです。性的な結合において。さて、別の相手と性的な関係を持つ時、あなたはそれを破り取って、今度は別の紙に貼り付けられます。でも、もう同じようにはいきません。なぜ？なぜなら、その紙はもはや、完全なままの紙ではないからです。実際、その紙にはあちこち 穴が開いているのです。なぜなら、あなたがそれを引き裂いた時、あっちの紙の一部があなたの紙に付いていて、両方の紙の糊が、両方の...どうしたことでしょう（笑） 第一礼拝はこれよりずっと上手く言えました。あなたは破っているんです。あなたはそれらをはぎ取ります。あなたは人々からはぎ取っているのです。あなたは人々を踏みつけ、人々を欺いています。人々から奪っています。それが性的な罪のすることです。あなたは彼らから奪っているのです。そしてあなたは複数の相手と関係を持って、まあ、何とすることでしょう。あなたがやり尽くしたころには、あなたはおしまいです。何も残っていません。すごく生々しかったですね。でも、みなさん、お分かりになったと思います。性的な罪が、神を不愉快にさせ、悲しませるというだけでなく、それは他の人たちを傷つけるのです。あなた自身のことは言うまでもありません。

それから、第三の理由です。これはとても重要なものです。それは罰をもたらします。私に言わせれば、これは霊的な罪に関して、忘れられている要素です。そのため、神は、そのような罪を犯す人たちを罰し、懲らしめなければなりません。神は、私たちを懲らしめることに喜びを感じられるわけではなく、神は私たちをご自分の子として、懲らしめなければならないのです。私たちはそれで自分が神の子であることが分かるのです。つまり、時には、神は私たちのお尻を叩かなければなりません。あなたは、自分が神の子であることをそのようにして知るのです。なぜなら、あなたが神の子でないなら、神はあなたのお尻を叩かれないでしょう。こんな想像できますか。 レストランで子供たちがふざけています。大声で走り回って、食べ物や投げたりしています。その両親は何もしません。あなたは食事を楽しもうとしています。あなたはその親たちを見て、「何とかしろよ」と思います。でも、彼らは何もしません。それであなたは立ち上がります。こう考えるのです。この子たちには、お仕置きが必要だな。そんなことをしたら、どうなると思いますか？ダメです！ 彼らはあなたの子ではありません。他人の子を叩くことはできません。そうしたいのは分かります。私はたぶん、自分に言い聞かせるべきでしょう。「あの子はしつけられる必要がある。」それによって分かるのです。それが誰の子であるか。彼らを懲らしめるのは、その親です。そのように、これは主にも当てはまることです。私たちは神の子です。だから神は私たちを正し、私たちを懲らしめられるのです。でも、問題はこれです。私たちはそれを拒むのです。それがパウロの言っていることです。私たちはそれを拒みます。ヘブル人への手紙の筆者は言います。「主の懲らしめを軽んじてはならない。」神はご自分が愛する者たちを懲らしめられます。妻と私は、子育てにおいて...いいですか、子供が生まれる前は、私たちは育児のすべてを知っていました。私たちはあらゆる本を読んで、すべて飲み込んでいました。第一子が生まれた後で、私たちが育児については全くの無知であることが分かりました。まあ、何ということでしょう。息子たちが幼かったころ、私たちは彼らを座らせて、彼らにこう言いました。「聞きなさい。お前たちが信じていることとは反対に、お母さんとお父さんは、朝起きてこう考えたんじゃないぞ。『やったあ。子供たちを懲らしめるのが 待ち遠しいぞ。』お前たちがそう思っているのは知っている。私たちはいつもお前たちを懲らしめているから。私たちはそれに喜びを覚えてはいない。でも、私たちがそうするのは、私たちがお前たちを愛しているからだよ。お前たちを愛していなかったら、私たちはお前たちを正したりしない。

『ああ、いいよ。やれ、やれ！ 3歳でナイフ投げをすればいい。アローハー！』

『どうでもいいよ。』

そうじゃない！私たちはお前たちのことを とっても気にかけて、愛しているから、お前たちを懲らしめなきゃいけないんだ。」それにしても、パウロがこう言うのは、おもしろいと思いませんか？ 私たちには、この、神を拒むという傾向がある、と。私たちに聖霊をくださる、その神を。お付き合いください。皆さんは、特にこの性的不品行という領域において、私たちが聖霊を拒むだけでなく、私たちの内におられる聖霊を悲しませ、さらには、聖霊を消すことすらありえると思いませんか？ なぜか？ 私たちが拒むからです。聖霊は私たちの内に住まわれ、 私たちに力をくださり、私たちが靈的な罪を克服できるようにして下さいます。私たちはそれを拒みます。いいですか。神は決して、ご自身、あるいはそのみこころを私たちに押し付けられません。だから、聖霊が私たちの内に住まわれるのです。

神のみこころに従って動くためです。ある解説者が良い言い方をしていました。

「私たちには聖霊が与えられている。」聞いてください。「聖霊は、意欲的な、信頼をするクリスチャンに力を与える。」私たちは意欲的でなければなりません。私たちは聖霊に従わなければなりません。「意欲的な、信頼をするクリスチャンが性的な罪を克服するために。」「主の御霊によって、神は私たちに勝利のための力（手段）を与えてくださっている。」「我々には、それらの力（手段）を利用する責任がある。」私たち次第なのです。その責任は私たちにあります。私は選択しなければなりません。私はこの誘惑に屈するのか。それとも、私は力をいただくために 聖霊に従うのか。この誘惑とこの罪に打ち勝つために。分かり切ったことかもしれないのは分かっていますが、私たちが自分の力で性的な罪を克服することのできる方法は、断固として絶対に、決して、一つもありません。これは現実、私たちのクリスチャン生活のすべての領域に当てはまることです。あなたは、聖霊の力がなくては、 聖い生き方はできないのです。分かりますか？ 「聖い」生き方—「聖い」霊です。最も憐れむべきクリスチャンは、自分の強さ、力によって クリスチャン生活をしようとしている人たちです。それは絶対に実現しません。それなのに、私たちは聖霊を拒み、聖霊を悲しませ、 聖霊を消してしまいます。聖霊はこんなになっているでしょう。「お——い！」

「わたしはあなたの中にいる。 わたしはあなたに内住している。」「わたしはあなたに力を与える。」皆さんは、3ステップ・プログラムというのを 聞いたことがありますか？ 以前にもお話ししましたが、 またお話しした方がいいかと思います。今が、それにちょうどいい機会でしょう。

3ステップ・プログラムは、次の通りです。 いきますよ？

第1ステップ：あなたにはできないということを認識する。

第2ステップ：神にはできるということを知る。

第3ステップ お待ちください。じゃあ、いきますよ。神にしてください。神にしてください。

神にしてください。 神に明け渡す。神に信頼する。いいですか、私たちの問題は... 「もっと頑張れ」それはあなた自身の力によるものです。あなたは肉にあってクリスチャン生活をしようとしているのです。

それは絶対に実現しません。心は燃えていても、肉体は弱いのです。君は負けようとしてるよ。 それはただ時間の問題さ。それで私は罪を犯します。「私は」と言うべきじゃなかった。皆さんが 「そうなんですか？」という顔をして見ているから。「私たちは罪を犯す」ということです。その方がいいですね。

私たちは罪を犯します。それで私たちはどうするでしょう？ 私たちはどんな反応をするでしょう？

「ああ、主よ。本当にごめんなさい。私は誓います。もう絶対にしません。」

本当に？ ああ、やれやれ。ところで、天におられる神が 「またやったなんて信じられない」 などと 言われることはありません。努力するのではなくて、 信頼するのです。私が倒れた時には、 神の恵みと赦しに信頼し、私が倒れないように、 聖霊の力に信頼するのです。大事なことがあります。 注意して聞いてください。私たちは罪の力によって支配されるか、 聖霊の力によって支配されるかの どちらかです。

どちらかひとつです。二つに一つです。私が罪の力の下にあるか、その罪を克服するための、聖霊の力の下にあるかのどちらかです。

ローマ人6:14聞いてください。あなたは今日ここにいらっしゃるかもしれないし、オンラインで観ておられるかもしれません。そして...これはとても現実的な戦いなわけです。実際、真実を明かせば、これがあなたのクリスチャン生活においてあなたをやり込めているもので、あなたが何年もこれで苦悩して来て、勝利して歩むための抜け道はないと思っているなら、私は、その道はあると、あなたに伝えたいのです。そして、ローマ人6:14が理解されなければなりません。なぜなら、それが性的な罪の監獄の鍵を開け、自由へと歩み出すための鍵だからです。それが真理です。それはあなたを開放する力強い真理です。だから、どうぞ聞いてください。これもまた、サタンがあなたに聞いてほしくないことです。

パウロが書いています。彼が何と言うか、聞いてください。

「というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。」その理由です。

「なぜなら、あなたがたは律法の下にはなく、恵みの下にあるからです。」

いいですね？パウロはここで何を言っているのでしょうか。パウロが言っているのは、もはや、罪も、罪の宣告も、その罪のための罪の意識も、もはや、その罪の宣告が、あなたを支配し、征服し、管理し、圧倒することはありません。あなたは律法の下にないからです。あなたは恵みの下にあるからです。パウロはコリント人たちに書いた最初の書簡の15章56節で、こう言います。

「罪の力は律法です。」つまり、私は罪を犯し、私は律法を破り、そして私は罪に定められる。私は律法の罪の定めの下にある。そしてローマ人8:1でパウロは言います。

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」

なぜ、それはそんなに重要なのでしょうか。なぜなら、敵が私を非難することを私が許し続けたら、私は、敵がその罪の意識と罪の定めを押しつづけるような重みの中で私を支配し続けることを許すことになるからです。そして、そうすると、要するに、私は敵がこの基礎構造を築くのを許したことになります。この上部構造、「罪の意識」と「罪の定め」の監獄です。それは私をますます罪とその支配の中に閉じ込め、抜け道が見つかりません。私はいつか勝利することがあるだろうか。絶対に敵を見くびってははいけません。殊に敵がこの領域で攻撃してくる時は。セックスは美しいものです。神は、結婚という契約の中で楽しむものとしてセックスを造られました。そして、サタンがそれを歪め、それを墮落させました。その上、私たちが誘惑される時、敵は、「ほら、ほら。後で赦しを請えばいいんだよ」と言ってきます。それであなたはその誘惑に屈します。するとその後、なんてこった！敵が待ち構えています。

「そんなことしたなんて、信じられない！」「またしても！」「あー、俺だったら、教会には行かないな。」

「あー、もし隣に座った人たちが知ったら...」ところで、今となりに座ってる人を見ないでくださいね。

「あー、俺だったら... ところで... また許してくれるように神に頼むのかい？」

「何回目？もう二度としないって言ったじゃないか。それなのに、またやっちゃったんだ！」

「お前は誓った。もう二度としないって言った。それなのにまたやったんだ。」

「さあ、どうかなあ... 俺は...」「俺は、主がもうお前のことにはうんざりしてる、と思うな。」

「彼は口が酸っぱくなるくらいお前に言ってあった。」

違うんですよ。それはあなたの地上の父で、あなたの天の父ではありません。ですから、皆さんは理解しなければなりません。これはやはり、勝利して歩むためには、とても重大で、非常に重要なことです。

あなたと私がイエス・キリストの救いの知識に預かるまでは、私たちがキリストのもとに来させないように、サタンは手段を選ばず、何でもやります。そして、私たちがキリストのもとに来て、救われ、生まれ変わります。すると、敵は戦略を変えます。今度の戦略は何でしょう？私たちを主から遠ざけることです。どうやって？罪の宣告（非難）です。それが聖霊による罪の自覚であって、敵による非難ではないことはいつもこういう風にして分かります。これがリトマス試験です。罪の自覚は、悔い改めにおいて私を主に近づけさせ、罪の宣告（非難）は、罪悪感のために私を主から遠ざけます。でも、お待ちください。私は律法の下にはありません。ですから、律法は私を罪に定めることができないし、サタンは私を責めることができません。そうです。でも、サタンはあなたにそれを知られたくないのです。なぜなら、あなたがそれを知り、そのように生き、それに従っ

て歩むことを、サタンが阻んでいる限り、あなたはサタンの思い通りの所にいるのです。なぜなら、サタンはあなたを罪に定め続けることができるからです。そしてその状況では、ロイ・ヘッションが記すように、

「そのような絶望の状況では、私たちはほとんどやる気がなく、さらに罪を犯すしかありません。

私たちの霊的な状況があまりにも活気がなく、満足のいかないものなので、私たちはもっと罪を犯しても、これ以上に状況が悪くなることはないような気がします。『だから、いいじゃないか。 どうせもうしくじったんだ。』この状況で私たちが望むことができるのは、最も恥ずかしい罪のいくつかを 隠そうとすることだけです。けれど、私たちが罪を隠す期間が長いほど、それは、長く私たちを罪に定め続け、私たちはますますその支配下に入って行くのです。これらすべてのことから、明らかではありませんか？サタンが私たちに罪を犯させようと挑発してくる本当の目的は、単に私たちが何か不道徳的なことをすることではなくて、私たちが罪を犯した時に、 彼が私たちを責める機会を得るためです。黙示録12章にあります。 彼は私たちの兄弟たちの告発者です。一番最初から、それが彼の計画だったのです。そして、その状況では、 私たちは無力にされてしまいます。不純な行いをしたクリスチャンは翌日、自分が全く卑劣な人間だと感じます。彼は神とも仲間のクリスチャンとも目を合わせたくなくなります。そして何がしかの霊的奉仕を引き受けることに 関しては、彼はむしろそれから逃げて隠れたがります。」

今日のクリスチャン家庭に何が起きているかを見れば、十分かもしれません。それから、今日のキリスト教会を見れば。ところで、私は今朝オンラインでAmazonをチェックして、この本がまだ入手可能であるか確かめてみました。まだ販売されてます。強くお勧めします。ロイ・ヘッション (Roy Hession)による "Forgotten Factors"です。彼は言います。

「これはまさに、悪魔がそのクリスチャンに罪を犯させようとした時に意図していた結末です。罪の支配の本質と、そこにある悪魔の意図が何であるかを理解することは、解放への第一歩です。」

ほう。第一歩は何ですか？

「私たちには今、恵みのメッセージを聞く用意があります。神の恵みは、何を受けるにも価しない人たちや、何もできない人たちに対して働く神の愛です。律法は確かに私たちをそこまで引き落としました。そうする上で、それは私たちを恵みの対象としました。そして、さらに、恵みの中では、解放された人たちに、新しい動機が生まれます。愛という動機です。多く赦された者は、多く愛します。これをちょっと覚えておいてください。また戻ってきますから。律法の下では、 恐れ以外の動機はありませんでした。罪の恐れ。罪科の恐れ。それは彼が何をしても取り除くことができないものです。しかし、恵みの中では、イエスの十字架の陰の下では、罪科は消え去ります。サタンの告発は封じられます。良心は雪よりも白くされます。そして力強い、新しい動機が私たちの心にやって来ます。私たちのためにこれをすべてして下さったお方に対する愛の動機です。この動機が、私たちに罪をやめさせ、そして私たち自身と私たちの体をすべてをなされたお方に、 しもべとして捧げさせます。そして、その動機に伴って、今や私たちの内に住まわれる聖霊により意志が強化されます。そして結果は、聖さです。本物の、実際的な聖さです。今、ここで。そしてその結末は永遠の命です。」

これがどういう意味か、知ってますか？次のように説明しましょう。 それから終わりにします。こういうことです。私が罪を犯します。私は赦されます。すぐに。敵の言うことに耳を貸してはいけません。

「俺だったら、今は赦しを請わない。 数日待つ。そう簡単には赦されない。」そうではありません。 私が十字架にたどり着くまで長くかかればかかるほど、私は敵に、私のことを罪に定める（非難する）権威を与えることとなります。彼は私が十字架にたどり着くと、もう私を非難しなくてよいのです。十字架で、私が再度犯したその罪は支払われたのです。主は私を愛しておられるから。多く赦された者は、多く愛します。イエスが何と言われたか、知ってますね。「もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。」私が子供だったころ、母がよくその聖句を引き合いに出していました。ただし、母はそれを間違っ引用して、間違っ理解していました。こんな感じでした。ワヒートー。お前が私を愛していたら、お前は。。。その意味するところは、「お前は私のことを愛していない。 だからそんなに不従順な子なのね。」そして私

は、「僕はサイテーの子だ。僕はママが大好きなのに。 何で僕はこんなに不従順なんだろう。」イエスが言われていたのはそういう事ではありません。イエスが言われていたのは、 ということです。「あなたがたは、従順に清らかに生きているクリスチャンをわたしに見せなさいそうすれば、わたしはあなたがたに、わたしを愛するクリスチャンを見せましょう。」 「あなたがたはわたしを愛するクリスチャンを見せなさい。わたしはあなたがたに、赦しを受けてきたクリスチャンを見せましょう。」つまり、これが方程式です。 私はあんまり方程式が得意じゃありませんが、 これは正確で実際的な方程式です。多く赦される=多く愛する=多く従うということなんです。いいですか。最後にこうっておきます。これが、勝利して歩むための鍵です。あなたは罪を犯します。あなたが罪を犯す時、あなたは赦されます。できるだけ早く十字架のもとに行くのです。何年も前、私と妻が結婚したばかりのころ、一私の妻は、とても負けず嫌いですーそして彼女は、私よりも先に 十字架にたどりつこうとします。夫婦間の葛藤がある度に。私たちにはもう夫婦間の葛藤はありません。 私たちは完璧ですから。牧師ですから(笑) 31年間です。完全に幸せな結婚生活です。とにかく、ある時、彼女は言いました。「あなたのことを言いつけるわ。 私が先に十字架に行って、 あなたのことを主に言いつけるわ。」 「ダメだ！」と私。「俺が先に行く。俺が先にそこに着く。」ある時、私はそのことを話していました。 何年も前、本土でのことです。壇上に立って、私は言っていました。

「男性たち。あなたたちは 奥さんをやっつけて (訳注: beat your wives--奥さんを殴って) そして私はちょうどそこで 一息ついたんです。考える限り最悪の場所です。 みんなの顔には恐怖の色がにじんでいます。私が言おうとしたことは、 私がそこで一息ついていなかったら、

「男性のみなさん、あなたたちは奥さんよりも 先に十字架に行かないといけません。」 (beat your wives to the cross)先にそこに着かなければ。私たちは霊的にリードしたいと思っています。良いことに関しては。でも、何かこういうことになると、 私たちは霊的リードをとらないのでしょうか？私はすごく罪を自覚させられたので、 皆さんにも同じくらい自覚させられてほしいんです。ですから、繰り返します。性的に清らかに、勝利して歩むための鍵はこれです。あなたは罪を犯します。あなたは赦されています。十字架に行くのです。あなたは即座に赦されます。待ち時間はありません。それは恵みです。不相応なものです。なぜか？ なぜなら、主はあなたのことをすごく愛しておられるからです。 そしてこうなります。これは面白いんです。「先生、それは人々に言えませんか」と言われますから。「彼らに『あなたは赦されている』と言ったら、 もっと罪を犯しますから。」絶対にそんなことはありません。絶対に。どうして絶対にそうではないか分かりますか？ なぜなのか、言いましょう。なぜなら、あなたがその赦しとその愛を受ける側にいると、あなたは神の心を悲しませたくないからです。なぜなら、神に対するあなたの愛が大きいから、 あなたが絶対にしたくないことは...それがあなたの動機です。あなたは神の心を悲しませるようなことは絶対に何もしたくないのです。私は妻をとても愛しているので、彼女を傷つけたり、悲しませたりすることは 絶対にしたくありません。そして同じことが言えるのです。 主に対してはもっとそうです。私は主を愛しています。そして私はとても多くを赦されています。私は主の恵みを受けてきました。何度も何度も。私の動機は、私の神の心を傷つけるようなことは何もしたくない、というものです。それが私の動機です。もし私が律法の下にいたら、 手に汗をかきながら、歩き回っているでしょう。「もう二度とやらないって言ったのに。」 「アアアアア」主はどうかと言えば...「一体...」神がびっくりされたと思うんですか？神は初めから終わりのことをご存知です。神は天で「こんな信じられない。わたしは何度言ったことか。」とは言われません。そうではありません。

「わたしはあなたのことをとても愛している。 だから、わたしはわたしのひとり子を送ったのだ。」

「あなたのために死んで、 その罪の支払いをするために」「信じる者はだれでも救われ、 滅びることがないように。」私たちはそれを信じていますか？私たちはその中を歩んでいますか？それが真理です。 そして私たちが自由にするのは真理です。私たちは赦されています。主は私たちをとても愛しておられます。そしてみなさんがそれを受けると...「私は神の心を傷つけるようなことは 何もしたくない。」

Pastor JD Farag

祈りましょう。お父様、ありがとうございます。あなたの恵みを感謝します。私たちが恵みの下にあることを感謝します。律法の下にないことを。敵はいつも私たちを罪に定めようとし続けますが、もはやその権利はありません。罪に定められることはありません。それはただますます私たちに罪を犯させます。罪の自覚は然り。罪の宣告（非難）は否。赦しは然り。愛は然り。主よ。ここにいらっしゃる方か、オンラインで観ている方で、この領域で苦悩している方がいれば、あなたは彼らの心をご存知です。彼らの心を励ましてください。人生を変えるこの真理で。そして彼らに勝利を与えてください。イエスの御名によって。アーメン。アーメン。

メッセージby JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記hukuinn7